

JAERA

News Letter

Oct/24/2007 No.14

「認定インストラクター」が大活躍

ELV機構の自再協委託研修事業

全国でフロン等適正処理講習進む

日本ELVリサイクル機構(酒井清行代表理事)が、自動車再資源化協力機構の委託事業として9月から開始した「JAERAインストラクター」によるフロン・エアバッグ適正処理講習会は、極めて順調に推移、10月23日現在、全国14地域組合で開催され、381人が受講を修了した。

初の試みにも関わらず各会場とも、受講者は熱心に受講していたのが印象的だった。ELV機構では全国の地域組合と協力、年内に全国講習を終了する予定。受講者には全員、ELV機構から「受講修了証」が贈られる。

委託事業は、まず自動車再資源化協力機構による「認定インストラクター」の育成講習から始まり、52名が参加、正規のインストラクターとしてELV機構、再資源化機構両団体から認定された。ついで、この「認定インストラクター」が講師となり、各地域組合の組合員を対象に講習会を開催、フロン・エアバッグの適正処理の徹底を図るという仕組み。

ELV機構としては、この「認定インストラクター」制度をより高度な位置づけと活用を目指し、業界後継者育成のスプリングボードにしていく考えだ。



地域講習のトップを切ったのは9月18日開催の新潟廃車処理協同組合(城丸哲夫理事長)。つい2週間ほど前に講師講習を終えて「認定インストラクター」なり立ての新潟自動車リサイクル(株)課長の野口竜己さん(31歳)が会場の自社工場に集まった26人の各社の担当社員さんを前に講習、無事一番手役を果たした。



10月6日に開催された岐阜県(有)カーパーツコンドールでの講習は、自ら「認定インストラクター」の資格を取った岐阜県ELV協議会会長でもある金森幸元(有)金森商會社長(42歳)が講師となり、自動車リサイクル法の意義から説き起こした座学、ガス漏れ防止を含めた実技ともにしっかりとカリキュラムをこなした。たまたま、見学に訪れていた、自再協の加藤誠理事も金森講師の

「授業振り?」に感心、「完璧でした」と太鼓判を押していた。



岐阜県ELV組合での金森インストラクターの座学



北海道自動車処理協同組合(南可昭理事長)札幌支部の講習会は10月13日札幌市近郊、恵庭市の石上車両(株)恵庭工場で実施。オーナー自ら「認定インストラクター」にチャレンジした(有)会田車両の会田隆社長(52歳)が講師となり実施した。

札幌支部講習は全国会場では最も多い50人が受講。例年より降雪が早かったという北海道。石上車両(株)の新装成った広い恵庭工場が会場だけに、



北自協札幌支部での会田インストラクターの座学

▼ジャンパーの襟を立て寒さに耐えての講習となった。同講習会には北自協の南理事長ら地元の幹部やELV機構本部から酒井代表理事も駆けつけ、受講者を激励した。



愛媛県自動車部品リサイクル協同組合(八束正理事長)でも13日、松前町の(株)ヤツヅカで講習会を開催した。全国の「認定インストラクター」52人中、



愛媛県組合の山本インストラクターの座学

▼ただ一人女性の山本留美子さん(40歳)は(株)ヤツヅカの生産課員でもある。ホームグラウンドの本社工場が講習会場とあって、参加した男性ばかり10人の受講者を前にてきばきと講習を進めていた。



熊本県内の熊本ELV協同組合(鳩村昭二郎理事長)と熊本県自動車再利用パーツ協同組合(中西孝二理事長)は、二つの組合が10月21日合同で講習会を開催した。

インストラクターは(株)キタグチの副工場長田上昭彦さん(42歳)。両組合からの参加者28人を対象にフロン回収の注意点、エアバッグ車上展開のポイントについて手際よく説明していた。 ◀

「チラシ配付活動」2年目迎える 10月のリサイクル部品普及月間

ELVリサイクル機構では、10月の3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間に合わせ、10月1日から1ヶ月間を「リサイクル部品普及月間」と定め、全国各地域で適正な自動車リサイクルの推進、リサイクル部品を理解してもらうためのチラシの配布、ノボリの掲出などを行った。この月間活動は昨年に引き続き今年で2回目となる。

「中高年・男性」が関心

東京の本部では10月1日の午後3時から、東京港区のJR新橋駅駅前で役員など14人が、キャンペーンのチラシを配布した。

酒井代表理事を筆頭に清水理事部品部会長、木内理事関東東ブロック長、早川監事、有原西東京自動車リサイクル協会理事、部品流通団体からは羽鳥日本トラックリファインパーツ協会会長、針ヶ谷テクルスネット代表、深澤リビルと工業会全国連合会会長など事務局を含め10名、さらに経済産業省自動車課から呉村課長補佐、水口課長補佐、別府係長、川和田係長の4名が特別参加、14名で目標の1千枚を1時間足らずで配布した。



配付終了！経産省自動車課スタッフを
中に新橋駅前で記念撮影

チラシ受取り状況では、若い女性、男性はほとんどゼロ、40代以上のオーナードライバーと感ぜられる男性の受取り率が高かった。

「主婦層」にねらい定める

札幌市に拠点を置く部品流通団体(株)エス・エス・ジーは昨年に引き続く2回目のチャレンジ。浜田泰臣社長を筆頭にメンバー18人がそろいのジャンパーを着用、札幌駅前「リサイクル部品普及チラシ」を配布した。

同社では不特定多数のユーザーにチラシを受け取ってもらう手法について毎年アイデアを練り、昨年は「クリアファイル」にチラシを入れて配布、今年は、「フリーザーバッグ」をチラシとセットで配布と、主婦層を対象にチラシの受取率向上を目指した。



札幌駅前に集まったエス・エス・ジー
会員の意気軒昂な笑顔

また配布場所のJR札幌駅ビルに設置されている大型の広告スクリーンも活用して10月1日から「廃車買取りのリサイクルまっち広告」を放映、相乗効果を狙った活動としていた。

チラシの配付は難しい!!

街頭チラシ配りは初体験という部品流通団SPNクラブ(栗原博之代表)は10月12日、仙台市のJR仙台駅前で道行く人に「リサイクル部品普及チラシ」を配布した。運営会社の(株)SPNの北島宗尚社長はじめ全国各地から集まった役員16人が「廃車は許可解体業者へノボリ」も掲出、自動車リサイクルの適正処理を訴えたほか、リサイクル部品の活用をアピールした。



仙台駅前でチラシ配付に
チャレンジしたSPNの会員さん達

「こんなに大変なものだとは思いませんでした」と北島社長がチラシ配付の難しさを改めてかみ締めていた。

「こんなに大変なものだとは思いませんでした」と北島社長がチラシ配付の難しさを改めてかみ締めていた。

2年目で「手ごたえ」感じる

10月18日には、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合(青木勝幸理事長)が、本部を置く東京港区のJR品川駅頭で宮地康弘専務理事を筆頭に事務局10人が「リサイクル部品普及チラシ」の配布を行った。



2回目の経験で自信をつけた
NGPの本部スタッフの面々

今年で2回目の実施となる同協同組合だが、配布の仕方「馴れた?」と同時に、受け取るユーザーの側も「昨年より

自動車リサイクルへの関心度合いが高まったように思う(宮地専務)という反応ぶりだった。

12月には東京BIGサイトで開催される「エコプロダクツ展」にも参加、来場者にリサイクル部品の活用を訴える計画だ。

白い廃車2台がポップに変身

自動車リサイクル認知活動に昨年にも増して頑張ったのが北九州ELV協同組合(大里茂夫理事長)。

10月20日、21日に小倉城公園で開かれた北九州市が主催する「エコライフステージ2007」に参加、20万人の来場者対象に「自動車リサイクルの適正処理」「リサイクル部品の普及促進」の知恵を絞った。

展示したリサイクル部品それぞれに「この部品を利用するとCO2〇〇キログラム削減に貢献します」

と数値を表示、廃車プレスの塊を展示して「ずばり重さ当てクイズ」を実施、賞品に自転車8台を提供した。



一番の人気は「廃車ペインティングゲーム」。

子供達が大勢参加した北九州ELV協同組合の真っ白い廃車ボディが子供達の色さまざまな漫画やイラストでポップアートに変身。2日間で廃車2台の塗り絵が出来た。この間チラシの受取は2千枚。実行委員長の尼岡良夫ELV協組理事は「早速北九州市の広報に掲載して貰う」と張り切っていた。

東京モーターショー2007を見て「パネルディスカッション」に参加しよう

東京モーターショー2007が10月27日から11月11日までの16日間にわたり幕張メッセで開幕するが、11月4日(日曜)の午後からは、会場内2階の国際会議室で、自動車リサイクル法制度の成果や自動車リサイクル部品利用のメリットなどをアピールする「東京モーターショーシンポジウム2007」が開催される。

シンポジウムは1部、2部に分かれ、第1部は「自動車リサイクル体験型学習ショー」。お笑いタレントのスピードワゴン、チェリーパイ、アニメキャラクター「ナルト」を生徒役にリサイクル博士に扮した今城高之自動車再資源化協力機構元理事が先生役で「自動車リサイクル法はどうゆう法律」「自動車リサイクル法の仕組みや成果」を楽しく学ぶ。

第2部の「パネルディスカッション」には、産業構造審議会自動車リサイクル部会座長で早稲田大学環境総合研究センター所長の永田勝也教授はじめ、自動車ジャーナリストの西沢ひろみさん、日本自動車工業会リサイクル廃棄物副会長で日産自動車リサイクル推進室長の穴戸和也さん、経済産業省自動車課の呉村益生課長補佐、環境省自動車リサイクル対策室室長補佐の中野哲哉さんとともに、ELV機構の酒井代表理事もパネラーとして参加する。

酒井パネラーは、リサイクル部品の活用が地球温暖化ガスの排出削減に大きく貢献することをPRする。

「パネルディスカッション」への参加は無料。モーターショー会場へは入場料1000円が必要。

11月より、フロン類の大型ボンベを引き渡す時は「ボンベ専用ケース」への梱包が必須になります!!

I. 「ボンベ専用ケース」追加発注方法について

ケースの数が不足している場合は、11月より追加発注を受け付けます。
 添付の発注申込書に必要事項を記入の上お申し込みください。
 ただし、追加発注は「平均的に月4本以上のボンベを引き渡している」回収業者の皆さまのみの対応とさせていただきます。
【ケースがまだ届いていない回収業者の皆さま】
 10月末日までに、原則「2個」お送りします。(過去の引渡実績により「2個」以上お届けすることがあります)

II. 過去にフロン類の引渡しをされていない回収業者の皆さまへ

自動車リサイクル法施行後、フロン類の引渡しをされていない回収業者の皆さまについては、「ボンベ専用ケース」のお申込みが別途必要になります。
 添付の発注申込書に必要事項を記入の上お申し込みください。
 (お申込みいただかないとケースはお届けしませんので、ボンベを引き渡す予定がある回収業者の皆さまは、必ずお申し込みください。)
 ※ 引き渡しをされたことがある回収業者の皆さまについては、お申込みは不要です。



III. 「ボンベ専用ケース」の仕様

サイズ: 400×400×400 (mm) 空き重量: 約3kg
 材質: ポリプロピレン
 ① フロン類集荷専用伝票入れ
 ② 実施日記入欄 ※詳細は下記項目“IV-②”にて説明
 ③ ベルト
 ※ 本ケースは無償にて提供いたします



IV. 対象ボンベ

ガードの上端がバルブ上端より高い大型ボンベ
 ※ 下記のボンベについては別途対応が必要となります。



① ガードがない ② ガードがバルブより低い位置についている ③ ロケット型



ご不明な点は 自動車再資源化協力機構
TEL:03-5405-6155 まで
 提供: 有限責任中間法人 自動車再資源化協力機構

編集後記

◆ELV機構が、会員にお願いしていた「自立法に対する要望アンケート」の中間集計ができた◆要望取まとめ委員会の手元で分析を進めており、11月号の日本ELVニュースで「公式にお知らせ」する予定だがその一部をご披露する◆「自立法施行でよかったと思う点」を聞いたところ、54.2%が「自動車解体業が社会的に認知された」と回答している◆過去、3K企業の代表のように見られてきた解体業だが、新たな法律の元、「環境産業」として大きく変身した◆またELV機構は独自の「認定インストラクター制度」を発足させた。もつと自信と誇りを持った業界に育つか、これからが正念場だろう(編集子)

有限責任中間法人
日本ELVリサイクル機構
 JAERAニュースレター
 発行日: 2007年10月24日
 発行所: 〒105-0004東京都港区新橋3丁目2-2
 一美ビル5F
 TEL.03-3519-5181 / FAX.03-3597-5171

ヤマトコンタクトサービス株式会社 行き

ボンベ専用ケース 発注申込書

「ボンベ専用ケース」が不足している回収業者の皆さまは、必要な追加個数をこの用紙によりお申込みください。

----- 《 申 込 欄 》 -----

どちらかを選択してください

- 新規発注 (対象：過去にフロン類の引渡しをしていない方)
- 追加発注 (対象：平均的に月4本以上のボンベを引渡している方)

事業者/事業所名	
----------	--

事業所コード								0	3
--------	--	--	--	--	--	--	--	---	---

ご担当者名		ご連絡先電話番号	()
-------	--	----------	-------

※電話番号につきましては、日中ご連絡できる番号をお知らせください。

送付先住所	〒 ー
-------	----------

必要個数をご記入ください。(確認のご連絡をする場合がございます。ご了承ください。)

ボンベ専用ケース必要個数	個
--------------	---

●対象ボンベのタイプ



下記ボンベには**対応していません**。
使用されている方は至急自再協へご連絡下さい。

① ガード無し

② ガードの位置が低い

③ ロケット型

FAX: 0120-260-995